

足関節の捻挫後遺症

復習して下さい。或いは、思い出して下さい。

捻挫とは、関節が正常可動域以上範囲になったとき、靭帯(じんたい)や関節包(関節を被っている袋)、関節表面の軟骨などが損傷を受けることですから、靭帯が伸びたり切れたりすることがあります。

① 靭帯の機能不全による

痛み、不安定感

なぜ

- ・足関節内の前外側部の滑膜炎のため
- ・断裂した靭帯断端が関節内に挟み込まれて痛みがでるため
- ・新たに内側部痛がある場合、軟骨の痛み(軟骨の細線維化や剥離)

② 外くるぶしの裂離骨折後の偽関節がある場合 * 余剰骨(または副骨)の場合もある。

再捻挫により痛み

再捻挫により外果と裂離骨折との間の線維性癒合が破綻し、裂離骨片の異常可動性により痛み

③ くるぶしの前が痛い

・インピンジメント(衝突)

捻挫によって損傷された前脛腓靭帯の遠位が治癒過程で肥厚・瘢痕化し、足関節の背屈時に距骨滑車と衝突。

この衝突が長く続くと滑膜炎、軟骨の線維化・亀裂・剥離が起こる。

・肥厚・瘢痕化した滑膜組織が関節裂隙に挟み込まれ痛み。

・神経損傷(浅腓骨神経損傷)

底屈内がえし強制により前方に突出した距骨滑車外縁で神経が伸張される。